

3. 新聞等に掲載された活動

国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度の来館者が、開館以降最多の8万人を上回った。	福島民友	2023年4月6日	東日本大震災・原子力災害伝承館の2022年度の来館者が、2020年9月の開館以降最多の8万119人となった。教育旅行などで県内外の人々に被災地の現状を見てもらう「ホープツーリズム」が浸透したことや、SNSを使ったPR活動を積極的に展開したこと、4人の常任研究員が着任したことで震災と原子力災害に関する研究活動の発信が進んだことなどが増加の要因とみられる。
高村 昇・教授	4月19日、東京都で開催された第56回原産年次大会において、モデレーターとして講演及び意見交換に参加した。	原子力産業新聞	2023年4月23日	「福島復興のこれまでとこれから」について講演を行い、「震災から12年が経過した。今回は大熊町の今について皆さんと想いを共有する機会としたい。」と述べた。その後、大熊町長の吉田淳氏と大熊町商工会会長の蜂須賀禮子氏の意見交換に進行として参加した。
高村 昇・教授	5月13日に長崎市で開催した先進7か国（G7）保健相会合において、各国代表へ長崎大学の展示ブースの説明を行った。	長崎新聞	2023年5月14日	熱帯医学研究所や感染症研究施設BSL4、原爆後障害研究所を紹介するパネルを展示し、被爆から立ち直った長崎の経験を原発事故で被害を受けた福島の復興に生かしていることなどを説明。「壊滅的な原爆の被害から復興した長崎は、ロシアのウクライナ侵攻で海外からも注目されている。海外の方に取り組みを発信してきた意義は大きい」と話した。
高村 昇・教授	6月9日、東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。	福島民報	2023年6月10日	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。見込みより1年3カ月ほど早い、2年9カ月での達成となった。「今後も多くの人に、福島の今の姿を知ってもらえるよう努力する」と述べた。
高村 昇・教授	6月9日、東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。	福島民友	2023年6月10日	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が20万人を突破した。「複合災害からの歩み、福島の今を知ってもらえるよう今後も努力していく」と述べた。

高村 昇・教授	6月14日、福島県立いわき総合高等学校で『ふくしまイノベ未来講座』が実施され、講話を行った。	福島民友	2023年6月20日	福島県立いわき総合高等学校の2年生約190人に対し、「放射線被ばくと健康影響」をテーマに講話した。身の回りの放射線や原子力災害、甲状腺に関する基礎的な情報などを伝えた。
高村 昇・教授	7月21日、カザフスタンの医療従事者5人とともに、鈴木史朗長崎市長を表敬訪問した。	長崎新聞	2023年7月22日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIMU）の事業である、被爆者医療研修を受けるカザフスタン医療従事者5人とともに、鈴木史朗長崎市長を表敬訪問した。研修は、被爆地長崎が蓄積した被爆者医療に関する技術支援や情報共有などを目的としており、期間中は長崎大学医学部や同原爆後障害医療研究所などで学ぶ。
高村 昇・教授	7月21日、カザフスタンの医療従事者5人とともに、大石賢吾長崎県知事を表敬訪問した。	長崎新聞	2023年8月3日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIMU）の事業である、被爆者医療研修を受けるカザフスタン医療従事者5人とともに、大石賢吾長崎県知事を表敬訪問した。
高村 昇・教授	9月6日、長崎大学福島未来創造支援研究センターが開催した「夏季国内集中セミナー」において、講演を行った。	福島民友	2023年9月7日	放射線被ばくと健康影響をテーマに講演し、福島第一原発事故をめぐる、住民避難や食品管理などで被ばく線量の低減化が図られたことを説明した。「放射線被ばくの遺伝的な影響はないことを理解し、周りの人にも伝えてほしい」と強調した。
高村 昇・教授	9月21日、福島県双葉郡双葉町で長崎大学が主催する「ウクライナ学生復興学セミナー」において、講義を行った。	福島民友	2023年9月22日	セミナーに参加した東日本国際大のウクライナ人留学生に対し、英語で講義を行った。チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故との比較や事故当時の双葉郡内各町村の状況、長崎大学が川内村で進める復興支援の取り組みなどを説明しながら、「福島の実状を理解するためには、放射線による健康への影響を研究することが重要だ」と述べた。
高村 昇・教授	11月3日、福島県双葉郡双葉町産業交流センターでワークショップを開催した。	福島民報	2023年11月5日	国際放射線防護委員会（ICPR）、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）の関係者とともに、中国・インドなどからの留学生9人に対し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの福島県復興に向けた取り組みや現状などを紹介した。

高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	読売新聞	2023年12月2日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネル討議を行い、震災後の福島と長崎のつながりについて意見を交わした。 高村教授は、福島と長崎を何度も行き来したことに触れ、「食べ物のおいしさや人の温かさなど、福島のいいところをたくさん知った。ぜひ皆さんにも足を運んでもらいたい」と呼びかけた。
高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	長崎新聞	2023年12月3日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、当時の状況や福島の魅力について語った。
高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	読売新聞	2024年1月27日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、当時の状況や復興に向けた取り組み、福島の魅力について語った。
高村 昇・教授	1月31日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎県の修学旅行生（高校生）を案内した。	福島民友	2024年2月2日	広島と長崎で「二重被爆」した曾祖父の体験を継承し、語り部として活動している長崎市の高校2年生 原田晋之介さんを含む長崎県の修学旅行生に対し、展示の説明などを行った。
高村 昇・教授	2月15日に長崎市で開かれた国際シンポジウムでウクライナ国立放射線医学研究センターのドミトリー・バジーカ所長が行った講演内容について、意見を述べた。	長崎新聞	2024年2月24日	「もし放射線災害が起きた場合は日本、そして長崎大として協力できる態勢が必要。ただ戦時下では支援が制限を受ける可能性があり、専門家育成のためにウクライナの医療関係者を招きたい」と話す一方、「（現在は）軍医として従事している人が多い上に一定年齢の男性は原則、国外に出られないようだ」と、もどかしさにもじませた。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月頃からフランス・モンベリアールでパネル展示を行う。	福島民友	2024年3月5日	フランス・モンベリアールで東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の経験と教訓を広く伝えるパネル展示を行う。伝承館が海外で展示を行うのは今回が初めてであり、高村教授のつながりで初めての海外展示が実現する見通しとなった。

高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民友	2024年3月12日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。
高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民報	2024年3月13日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。 「若い人が伝えていくことが大切。記憶はあやふやになりかねず、収集していくことが大事だ。幅広い人の当時の記憶が将来の防災減災につながる」と継承の意義を説いた。
高村 昇・教授	3月12日、福島県の大葉町産業交流センター（F-BICC）で、福島の復興推進拠点活動報告会を開催した。	長崎新聞	2024年3月13日	東日本大震災の被災地である福島県の川内、富岡、大熊、双葉4町村に設置した復興推進拠点の活動報告会を双葉町産業交流センター（F-BICC）で開いた。 長崎大学のほか、福島県内の大学や企業の関係者8人による教育や地域復興などの取り組みについての報告や、大熊町長らによる座談会が行われ、現地とオンライン合わせて約100人が参加した。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月から1年間、フランスのモンペリエール市で海外初の出張展示を行う。	福島民報	2024年3月13日	震災と東京電力福島第一原発事故の発生当初から13年間の復興の歩みをパネルで紹介する。 期間中は、語り部とともに渡仏し、科学的事実に基づく福島県の正確な情報や体験を踏まえた教訓を発信する。
高村 昇・教授	3月16日から、東日本大震災・原子力災害伝承館で「盆踊りの継承パネル展」が始まった。	福島民友	2024年3月17日	展示では、東京電力福島第一原発事故で一度は存続が危ぶまれた双葉郡8町村や飯館村も「盆踊り」がどのように継承されているかをまとめた。震災前の踊りの様子に加え、現在の継承がどのように行われているかなどについて、継承している人の思いも交えて分かりやすく解説している。

放射線災害医療学研究分野（原研医療）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
光武範史・教授	米国内分泌学会発行のEndocrine Reviews誌に掲載された放射線被ばくに関連する甲状腺がんについての依頼総説に関するインタビュー記事	米国内分泌学会のニュースレター誌Endocrine News	2024年3月8日	甲状腺に対するさまざまな被ばくのシナリオ、線量、そしてそのリスクについて説明した

血液内科学研究分野（原研内科）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授	放射線の被害者支援	読売新聞	2022年4月7日	RECNAの吉田所長と原研所長は6月に開催される核兵器禁止条約の第1回締約国会議を前に放射線被害者支援に関する提言書を発表した
宮崎泰司・教授	原爆犠牲者慰霊祭举行	長崎大学HP	2022年8月18日 up	8月9日医学部記念講堂において原爆放射線の影響から学び、放射線による被害を繰り返さないこと、安全な放射線利用を目指して研究を続けることは原研、及び長崎大学の進むべき道である都の講演を行った

放射線災害医療学研究分野（原研医療）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
光武範史・教授	米国内分泌学会発行のEndocrine Reviews誌に掲載された放射線被ばくに関連する甲状腺がんについての依頼総説に関するインタビュー記事	米国内分泌学会のニュースレター誌Endocrine News	2024年3月8日	甲状腺に対するさまざまな被ばくのシナリオ、線量、そしてそのリスクについて説明した

腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
松田勝也・准教授	子宮頸がん啓発企画 2023 LOVE49 プロジェクト	NBCラジオ	2023年4月6日	NBCラジオ「チャージ」で子宮頸がん検診やHPVワクチンの重要性を解説した
中島正洋・教授	長崎原爆資料館リニューアル専門家小委員会が始動 新たな展示方法について意見交わす	長崎新聞	2023年7月28日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した。
中島正洋・教授	ヒロシマとナガサキの後：命を狙われ非合法化	German Medical Journal	2023年8月7日	ドイツ医学会から医師が来訪し、インタビューを受け、原爆被爆者の研究について説明した。その内容がドイツ医学会雑誌に掲載された。
中島正洋・教授	長崎市で放射線医療をカザフスタンに医療従事者が研究	NBC長崎放送	2023年8月20日	長崎ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）の専門家研修としてカザフスタンから医療従事者を招聘し、原研と大学病院で研修事業をこなった。
中島正洋・教授	原爆投下に至る歴史 加害と被害の両面から議論 原爆資料館リニューアル運営審議会小委員会	長崎新聞	2023年8月25日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した

中島正洋・教授	原爆投下、歴史認識を議論 資料館展示 小委員会	毎日新聞	2023年8月25日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した
中島正洋・教授	長崎原爆資料館の原爆投下に至る歴史展示を議論	KTNテレビ長崎	2023年8月25日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した
中島正洋・教授	被爆80年に向け資料館展示リニューアル 審議会で議論	朝日新聞デジタル	2023年8月25日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した
中島正洋・教授	若い世代への伝え方議「自分事」「双方向」キーワードに	長崎新聞	2023年9月20日	長崎原爆資料館の展示内容のリニューアルが予定されている。その方向性について、専門家の立場で、市の担当者と意見交換した
Kerimbayeva Adiya・大学院生	第2回「核なき未来」オピニオン 長崎大RECNA 最優秀賞作品「核兵器のない未来」	長崎新聞	2023年9月24日	RECNA主催の第2回「核なき未来」オピニオンに応募し、最優秀賞を受賞した。カザフスタンからの留学生の受賞。
中島正洋・教授	患者の臓器標本からは今も放射線「葉害」伝える資料、全て保管し引き継げるかどうか...	信濃毎日新聞	2023年10月20日	トロトラスト症という希少剖検例のバイオバンクについての紹介で、取材に協力した。

資料調査室（原研情報）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
横田 賢一・助教	被爆者資料望まれる保存は	中国新聞	2023年6月5日	本学の被爆者データベースを紹介し、管理する人材確保の必要性を述べた